

第2回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 委員意見への対応

項目	意見	対応
圏域の将来像	自然に関する記述がない。	将来像に関しては、委員からの御意見を踏まえて事務局案を示し、引き続き検討していくものとします。
	【案】の3つについては、何をしたいかが分かりにくい。例えば、「互いに補完し合い 連携し合って目指す 共存共栄の置賜地域づくり」など（追加意見） 「連携」「補完」「魅力あるおきたま」がキーワード 「互いに補完し合い、連携し合って築く 共存共栄のまち おきたま」	
	もう少し時間をかけたい。	
	地域内で人口の奪い合いをなくすように、圏域内で連携を。	
	圏域の将来像を定めて具体的取組に持っていくより、計画を作る段階であれば両方一緒に考えていった方がよいのでは。	
	難しい言葉を省いて「つながるおきたま」というのがいい。	
	簡単で、インパクトがあって、わかりやすい、という条件があると思う。 「共存共栄」の文言を入れてほしい。いかにして人口を増やすか、人口対策に取り組むか、そういう視点で話し合いを持っていかなければならないと思う。	
	定住自立圏の目的は、外から、置賜の魅力を感じて訪れたい・暮らしたいと思う人を増やすこと。置賜の特性は何なのかを我々も認識する必要がある。	
	定住自立圏構想の趣旨を将来像にもっと入れていいのでは。	
	具体的にわかりやすく地域の方が捉えることできるような将来像の説明が必要。	
	将来的なつながりや発展の期待を込めて「未来」という文言を加えたい。	
	「東洋のアルカディア」という言葉は活かさないか。全国でも通用するようなものだといいい。	

項目	意見	対応
(1) 生活機能の強化 ② 福祉 ア 子育て支援の充実	放課後学童クラブ、放課後教室の支援はどうか。学童クラブは、米沢市の協議会や県の協議会はあるが、置賜として協議会がない。そういったつながりがあると自分たちで情報交換したり、子供たち同士の交流もできるのではないか。	協議会は、行政主導で立ち上げたものではなく、団体が集まって自主的に結成した組織であることから、引き続き各団体の自主性を尊重する方向で対応したいと考えています。
	「各市町が有する児童遊園施設等の利用案内を一括掲載した広報誌を作成し、地域住民の利用に役立てる」ことを加えられないか。	「置賜地域みんなで子育て応援団」（事務局：県）において、置賜管内の施設をまとめた「おきたま子育て応援ガイド」という冊子が既に作成され、保護者等に配布し活用していますので、引き続き周知に努めます。
	休校・廃校校舎を利用して、雨天時、冬季間に児童が思い切り身体を動かすことができる施設を作り、広域利用できないか。	高畠町が旧高畠四中体育館を改修して、屋内遊戯場を建設しており、完成後は、広域利用に向けても圏域内の住民の方々に周知していきます。
イ 福祉・健康事業の充実	3人に1人は高齢者。ぜひ、高齢者向けの取組を。	現在各市町において、住み慣れた地域で自立して暮らしていけることを目標に、各地域の特性を生かした『地域包括ケアシステム』の構築を進めていますので、今後、広域的に取り組むことで効果の上がる事業について検討していきます。
	元気な高齢者に社会に出ていってもらうためにも介護予防の取組があるといい。	
	地域共生社会の推進、生活困窮者自立支援、子供や子育て家庭への支援強化についても具体的取組に明記できないか。	地域共生社会は困難をもつあらゆる人を地域で支えるための仕組みであり、住民のより身近な圏域、例えば小学校圏域や中学校圏域での体制づくりを進めていく必要があります。 また、生活困窮者の自立支援については、国の法律で「各事業は市及び福祉事務所を設置する町村又は都道府県により実施しなければならないもの或いは実施できるもの」と規定されています。県内どこでも同じ任意事業の支援メニューが利用できる体制を目指し、未実施の市町については、県の事業を活用した支援が受けられるようになっていることから周知に努めていきます。

項目	意見	対応
		子供や子育て家庭への支援強化については、各市町の独自施策・事業となりますが、広域連携できるものとして、保護者の就労状況に合わせた保育所の広域利用を既に実施しているほか、共生ビジョンにも掲載していますが、一時預かり事業、病児保育事業などの広域利用を進めていきます。
	新たな項目として、各市町に存する老人福祉施設の利用案内情報を一括して掲載するパンフレット等の作成を加えられないか。	置賜全域のパンフレットとなると、全体的な調査が必要となりますので、今回の意見を受け、必要性についても精査し、作成について検討していきます。
③ 教育 ア 教育環境・生涯学習の充実	置賜圏域の教育課題としては児童生徒数の減少・高校生の減少に伴う公立高校の再編整備も大きな関心事であり、具体的な取組が必要ではないか。	公立高校再編整備は、県教育委員会高校教育課が基本計画を策定し進めておりますが、市町教育委員会としても、整備状況等について情報収集に努め、各中学校に提供するなどし、進路指導に生かしていきます。
	教育環境の支援策として（又は雇用の拡大）置賜管内にある山大工学部や栄養大・米短などに地元の高校生の進学率を上げる取組や卒業後は管内や県内に残る対策、またそれには雇用の場が必要となり、一貫しての取組をする必要がある。	地元の高校生の進学率向上や卒業後の圏域内への定着については、既に各々の大学が独自に取組を進めています。また、学園都市推進協議会（事務局：米沢市、米沢商工会議所）としても、地元の高校生等を圏域内に定着させる取組を進めていきます。
2 各種講座、企画展等の実施	合同講座を開催してほしい。置賜にある古墳群や史跡巡りなど一日ではできないことを連続講座で行うなど検討してほしい。	合同講座の開催や一日ではできない講座を連続講座に企画できないかを検討します。
④ 産業振興 ア 農畜産物等の振興 2 有害鳥獣対策の広域的対応の検討	猟友会の高齢化により人手不足。森林里山対策と併せて力を入れてほしい。	各市町で新規狩猟者に対する補助を行っております。新規狩猟者はある程度増えておりますが、猟友会の高齢化は、将来的な不安要素です。そこで、県の指定管理鳥獣捕獲等事業により、新しい捕獲体制や効果的・効率的な捕獲等について検討するほか、共生ビジョンにも掲載し取り組んでいきます。
	有害鳥獣対策については、被害防止が主目的になっているが、一方においてその活用（野生鳥獣の解体処理場・ジビエ料理の提供など）も目指した取り組みがあってもいいのではないか。	現時点では、費用対効果等の面から、すぐに取り組むことは難しいので、まずは、喫緊の課題である被害防止対策を最重要課題として取り組んでいきます。

項目	意見	対応
イ 米沢牛の振興	県は青年就農者支援を行い、JAも新規就農者支援と定着化に向けて独自支援を行っております。新規就農者の確保が米沢牛ブランド維持に不可欠であり、地区外からの新規就農者をいかに呼び込むか、また、定着化できるか等の支援を検討して頂きたい。例えば、施設整備による初期投資の抑制、居住の斡旋など…そして、そのビジョンが本件の目的である定住化に繋がるよう是非お願い致します。	畜産は、施設・機械等への初期投資や技術の習得等の面で新規就農する場合のハードルは高いですが、米沢牛ブランドの維持拡大には新規参入は必要であると考えています。人材の確保に向けて、必要な支援策や方法を検討していきます。
1 米沢牛生産基盤強化事業	繁殖・肥育センターの整備は急務、しかしながら広域利用農家の募集については難しく行政区での対応が望ましいのではないかと、また、循環型農業を視野に入れ堆肥処理の検討も必要と思う。	繁殖・肥育センターの必要性は強く認識しており、運営方法や規模については検討していく必要があると考えています。 また、堆肥処理はもちろんですが、臭いや排水等、環境に十分配慮した施設でなければいけないと考えています。
2 自給飼料の確保及び放牧場の広域利用	放牧場の管理運営は大変厳しい状況にあり、雇用の確保や圃場の作業効率など既施設の環境改善がまずは必要と思う。また、地区によっては水田放牧への期待感がありそうした支援も検討頂きたい。	放牧場は、繁殖基盤を支えていくためにも重要な施設であり、利用者の声を聴きながらより良い放牧場となるよう維持管理に努めていきます。水田放牧については、すでに小国町内で実施しており、未利用地の有効活用や放牧風景を見てもらうことによる住民や観光客への効果が期待できることから、支援策を検討していきます。
3 先進的取組の推進	受精卵の判別について山形大学で研究している。優秀な受精卵を選び、着床率を上げることは非常に有益。ぜひ組み込んでほしい。	取組について改めて確認し、活用について検討していきます。
	ゲノミック事業の実行性や評価については充分検討が必要と示唆する。県行政と連携を密にした対応が必要と思う。	市町レベルでは、技術や知識が不足しているため、県や生産者団体等とも協議しながら進めていきます。 まずは、勉強会や研修会を通して理解を深めていきたいと考えています。
6 米沢牛生産者への支援事業	高齢化が進むなか飼育農家の68%は後継者がいない状況であり、10年後は半分になるとも言われています。早急に支援体制を整備し、また、支援が各行政均衡に取り組めるように要望します。	各行政が共通した認識と危機感を持ち、後継者の確保を含めて、置賜3市5町で統一した支援が実施できるよう検討していきます。

項目	意見	対応
ウ 商工業の活性化と雇用促進	地元産業界からの深刻な現状として、社長後継者不足があがってきています。次期社長人材が不足しているため、社長さん方の高齢化が進んでいるとのこと。早急に人材育成を行わないと、まもなく県内の企業が立ち行かないことになるということです。早急に「労働力人口の不足」に加えて、「後継者不足」（米沢牛と同様）を挙げてはいかがでしょうか。この次期社長育成は、実は工学部の MOT がその役目を担っていますので、学園都市活用の一例として MOT 活用を勧めます。	“事業承継に向けた人材の育成”については、セミナーや講座の開催等が考えられますが、今後、ワーキンググループを開催し検討していきます。また、MOT 活用に関しては、一つの方策として周知を図り、今後、活用を検討していきます。
1 産業人材の確保・定着の促進	商工業はこれだけか。もっと外向きに打ち出せる内容の事業を。それが力になる。	現時点では、広域連携の事業については、さらに調整していく必要があり、引き続きワーキンググループを開催し検討していきます。
エ 広域観光の推進 1 道の駅米沢を中心とした広域観光の推進	道の駅から人の流れを作るためのモデルケースを作る。地域の人々が観光の仕方を PR し、それを道の駅米沢から発信することが効果的。 置賜はインバウンドに成功したことがない。観光業は人不足もあり、新しい観光コンテンツを作り出すのは難しいので、ぜひ既存のものを活かして。経費が掛からなくても PR できるものを地元目線で掘り起こしていけるとよい。	山形おきたま観光協議会が組織する「道の駅米沢総合観光案内所運営検討委員会」において、道の駅米沢から置賜圏域への人の流れを作るための方法や情報発信の仕方について、3市5町の観光関係者と共に検討していきたいと考えています。 また、インバウンドについては、これまで3市5町と共同で「置賜コンシェルジュ事業」を通じて受入態勢整備等を行ってきましたが、引き続き定住自立圏の枠組みの中で、置賜地域インバウンド受入推進協議会とも連携しながら、インバウンド事業を行っていききたいと考えています。
	道の駅米沢の集客力を活用しながら各地域に観光客を流したいが、点在する観光資源の知名度、ポテンシャルが低いということもあり、その整備もして連携するといった二段構えの施策が必要。	各市町に点在する観光資源の整備に関しては、各市町で対応することが基本となりますが、道の駅米沢を起点とする旅行商品において、観光客のニーズに応じて各地域に点在する観光資源を組み合わせるなど、ソフト面の連携を中心に、定住自立圏の枠組みの中で行っていききたいと考えています。

項目	意見	対応
	観光だけでなく路線バス等の運行や公共交通網の整備にも関わる事ですが、米沢から各市町（特に一番離れた白鷹町）に行く道路が遠いしわかりにくい。 広域的な観光や市町間を便利に繋ぐためには高規格な道路整備も必要なのではないでしょうか。先日の会議内でも遠ければそこには行かないとのシビアな意見が出ておりましたので特にそう思いました。	現在、置賜地域の活性化と発展を目指して各道路建設期成同盟会等を立ち上げて、白鷹～米沢間の規格の高い道路など、官民が一体となって、関係機関に対する要望活動等を展開しています。広域連携を進めるためには、各市町をつなぐ道路の整備は不可欠であり、今後も要望活動等を連携し、進めていきます。
2 山形おきたま観光協議会による観光プロモーションの実施	インバウンドのプロモーションは、もっと大きな組織で、またエアポートのあるエリアで行うなどしたほうが効率的で具体性もあるのではないかな。	インバウンドプロモーションについては、全県の観光関係者で組織する山形県国際観光推進協議会並びに置賜3市5町による置賜地域インバウンド受入推進協議会と連携し、効果的な事業展開を行っていきたいと考えています。
3 地域連携DMOの運営	DMOは観光をビジネス化する切り札。なおかつ地域経済と連携する大きな動きとなることから期待している。DMOはビジネス行為として動いており、観光協会はプロモーションという二重構造になる点では、今後取り組んでいく中で議論は必要。	DMOと既存の観光組織との連携・役割分担の在り方について、今後検討していきたいと考えています。
	DMOの連携はぜひ進めてほしい。観光目的の視点ごとに観光ルートを整備してはどうか。そのためには各地域の観光協会などが話し合いの場を設けるなども必要になってくるだろう。DMOがゲートウェイになるということから考えれば、置賜全域で進めていってほしい。	DMOと既存の観光組織との連携・役割分担の在り方について、今後検討していきたいと考えています。また、観光協会の話し合いの場として、県南観光協議会があるので、観光目的の視点ごとに観光ルートの整備について働きかけをしたいと考えています。
	各市町で観光史跡等を紹介しているが、広域観光に結びつけるには、広域の観光案内が必要と思う。その際、観光に訪れる人の目的を考えると、視点（観光目的）ごとの多市町にわたる広域観光案内があれば良い。たとえば、古代の視点で各市町の古代遺跡を紹介したパンフレットとか、上杉家に関わる各市町の観光地を紹介したルートマップとかを作成してはどうかと思う。その際、各市町の情報を整理するために、3市5町、DMOまたは観光協会がしっかり連携を図るようにしていただきたい。	観光客それぞれのニーズに応じた旅行商品を提案することによって、広域の観光案内や周遊に繋がっていきたいと考えています。各市町にわたる観光客の視点毎のパンフレット等の作成については、山形おきたま観光協議会と連携を図りつつ、素材の洗い出しや周知ツール等の整備を行っていきたいと考えています。

項目	意見	対応
⑦ 消防・防災体制の強化 1 消防機能の強化	自治組織などに呼び掛けて防災意識の高揚の視点を。	各市町においては、防災意識の高揚等を図るために自主防災組織の設立を促進しているという状況にあり、ビジョンに掲載している防災資機材の交付や情報提供を行うことなどにより、防災意識の高揚を図っていきたいと考えています。
(2) 結びつきやネットワークの強化 ① 交通 ア 交通ネットワークの維持・整備	「圏域内」という言葉 「事業名1 鉄道路線の利用促進」及び「事業名2 道路整備の推進」は置賜圏域はもとより圏外との交通確保が重要であり、とりわけ奥羽新幹線のフル規格化や新潟山形南部高規格道路などの重要事業を推進する上で、「圏域内の・・・」という表現は改めるべきでは。	新幹線や高規格道路など、圏域の内外をつなぐ路線は、もちろん重要であると考えており、それに関連する要望活動等を連携して取り組んでいきます。この項目については、その上で、さらに圏域内における通勤・通学等の住民の足を確保するという趣旨で掲載しているものであります。
	奥羽新幹線の新たな置賜の組織が設立されるのに伴い、なお新幹線の項目はひとつとして取上げ、重きを置いた方がよいのでは。	御意見のとおり、新幹線については重要な項目です。で、「(仮称)置賜地域奥羽新幹線整備・米沢―福島間トンネル整備実現同盟会」を事業内容に明記します。なお、奥羽本線、米坂線、フラワー長井線等の鉄道については、相互に連携しながら置賜地域の鉄道路線の利便性向上や利用促進等を図る必要があることから、新幹線についても鉄道の項目の中で連携しながら各種活動を展開していきたいと考えています。
3 路線バス等の運行、維持	白鷹から置賜総合病院に行くのが大変。そういった広域な連携を検討してほしい。	各市町の既存の路線バス等の公共交通を最大限活用し、乗り継ぎ等の相互利用により利便性の向上を図るとともに、広域的な移動手段の確保を図るため、「既存公共交通の利用拡大策の検討」の中で、公共交通の広域的な運行について検討を行っていきます。
	米沢でも同じことが言える。ぜひ取り組んでほしい。	
5 広域的な公共交通網の整備に向けた検討	白鷹高等専修学校に通学する生徒の交通の負担は大きい。ぜひ置賜一円の交通網の整備を進めてほしい。	

項目	意見	対応
	バスの運賃がとても高い。子育て支援にも関連するが、中学校までは通学に係る支援があるが、高校進学にあたり、交通手段により進学先を選ぶなど影響してくる。通学する高校生までは、何かしらの支援があってもよいのではないか。	既存のバス路線については、利用者が減少し、赤字路線となっているものも多く、住民の足として確保するため、各市町で運行に係る費用の一部を負担しております。事業者が実施している中では、距離に応じた料金体系となっていますので、通学時間に合わせた運行時刻を設定するなど、事業者とも協議をし、住民の足としてのバス路線の確保に努めていきたいと考えています。
② 移住・定住・交流 ア 移住・定住・交流等の推進	「移住・定住促進」の一手段として“空き家利用”は考えられないか。	空き家購入のための助成事業を実施している市町もあることから、今後は情報共有を図りながら、空き家の利活用についても検討を行っていきます。
1 広域連携による移住交流促進事業	市町単位で地域を限定していると人が集まりにくい。置賜一円、広域で取り組むべき。	現在、置賜圏域全体で『移住・定住・交流』に関する勉強会、「置賜暮らしセミナー」や「置賜魅力体験ツアー」などを実施していますので、今後も置賜の情報を発信するため、広域での事業展開を継続していきます。
3 婚活支援事業	「女性に好感がもたれるための男性向けブラッシュアップセミナー」の表現は、問題があるのではないか。女性に好感をもたれるための“ごまかし術”を伝授するようなニュアンスがある。身だしなみや言葉遣い、食事マナーを学んだとして、男性のブラッシュアップにはならないだろう。その手のことは行政が行うことではないように思う。男性（女性が対象でないのも問題だが）の質を高めるために、経済セミナーや IT 講習会等を開催するということなら「若者のためのブラッシュアップセミナーの開催」でいいのではないか。	婚活者をターゲットに市民からの御要望でセミナー等を実施しておりますが、姿勢や身だしなみを整え、社会人としてのエチケットやマナーを学び、それを普段の生活で実践していただくことは、豊かな人生を送っていただくための基礎を築く学びと考え開催しているところです。講座タイトルについては、御指摘の趣旨を考慮して修正します。

項目	意見	対応
その他委員からの意見	中心市としての米沢は、まちづくり総合計画において、「学園都市」を掲げていますので、具体的取組の中で、山形大学工学部あるいは栄養大学の研究成果を生かす取組とか、あるいは官学による研究とか、を書き込めればと思います。とくに米沢市からの研究費が使われた「山大産研」での研究成果はかなり蓄積されているはずですので、それらを積極的に活用するような取組内容にしてほしいところです。例えば、牛受精卵の評価技術は、米沢牛の取り組みのところで取り上げててもよろしいかと。	牛受精卵の評価技術については、「米沢牛」に記載したとおり、活用を検討していきます。また、山大工学部等の研究成果を生かす取組に関して、これまでの内容について改めて確認し、定住自立圏の趣旨に沿って活用できないか検討していきます。
	2 圏域の概況（2）歴史的なつながり 地域のつながりは歴史に起因するところが大きい。その意味で、“上杉家”の視点から、産業や文化等が各地域にどのように展開されていたのかも、もう少し掘り下げた記述があれば、なお良いと思われる。	歴史的なつながりについて、越後街道や最上川の舟運に触れ、内容を加筆します。詳しくはビジョンの2ページを御覧ください。
	置賜地域では都市的機能を確保するため、すでに広域連携による枠組みが多数形成されております。（農協、病院、ゴミ処理、消防等） 定住自立圏の趣旨としては米沢市を中心にどう機能を集約し事業を展開するかに主眼が置くことが前提とは思いますが、既存の広域的な枠組みも基盤の一部として捉え、計画に載せるべきでないか。	廃棄物や消防等、既に広域で取り組まれているものについては、ビジョンに掲載しており、農協についても、農畜産・米沢牛の分野で連携していくこととしています。また、病院の連携については、現在米沢市立病院の建替えを進めていることから、その後、広域連携について検討したいと考えています。